



2018年11月21日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック  
代表者名 代表取締役社長 福永 健司  
(コード番号 2342 東証マザーズ)  
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰  
(電話番号 03-6551-2601)

<マザーズ> 投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

- 開催状況
- 開催日時 2018年11月21日14:00~14:30
- 開催方法 対面による実開催
- 開催場所 東京国際フォーラム ガラス棟会議室  
(東京都千代田区丸の内3丁目5番1号)
- 説明会資料名 株式会社トランスジェニック 2019年3月期中間決算説明会資料

【添付資料】

株式会社トランスジェニック 2019年3月期中間決算説明会資料

以上

**2019年3月期 第2四半期**

**決算説明会**



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<http://www.transgenic.co.jp>

**2018年11月21日**

**株式会社トランスジェニック**

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

# I. 2019年3月期 第2四半期 連結決算概要

# II. 2019年3月期 連結業績予想

# III. 事業トピックス

# IV. 研究開発状況



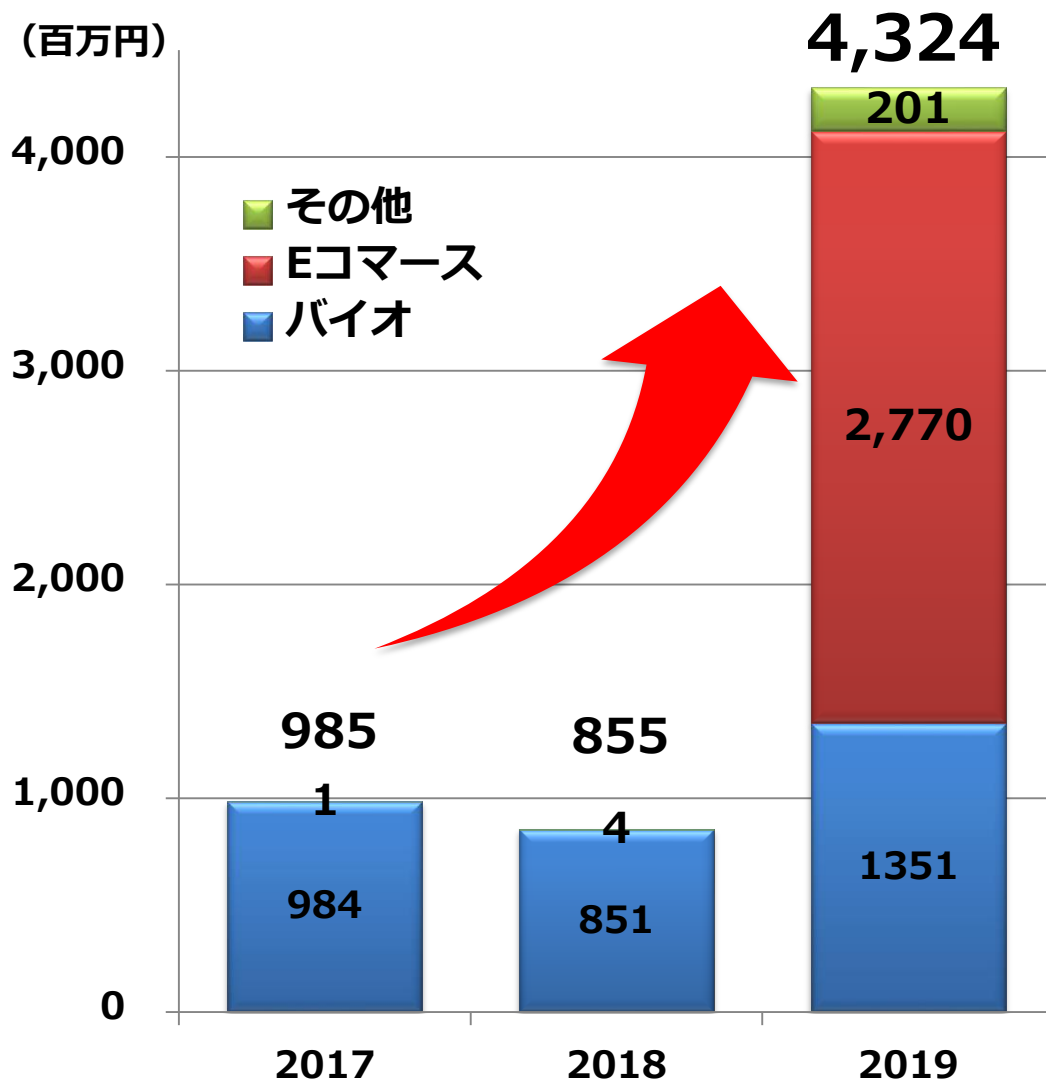
# I .2019年3月期第2四半期 連結決算概要

## 2019年3月期 第2四半期連結決算：ハイライト

- CRO事業及びEコマース事業売上が寄与し連結売上高が前年同期比で5倍強に拡大
- 収益基盤強化と底上げにより第2四半期で損益分岐点突破、前年同期比で大幅増益
- 受注変動及び事業構造改革途上の端境期にあった前期から短期間で業績拡大を実現

単位：千円	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	増減額（増減率）
売上高	855,183	4,324,250	3,469,067 (405.7%)
売上原価	630,180	3,588,360	2,958,179 (469.4%)
売上総利益	225,002	735,889	510,887 (227.1%)
販管費 (研究開発費)	306,407 (28,500)	632,751 (31,757)	326,344 (106.5%) (3,257)
営業利益	▲81,404	103,138	184,543 (-)
経常利益	▲89,997	73,857	163,855 (-)
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲73,334	28,352	101,686 (-)

## 上期連結売上高推移

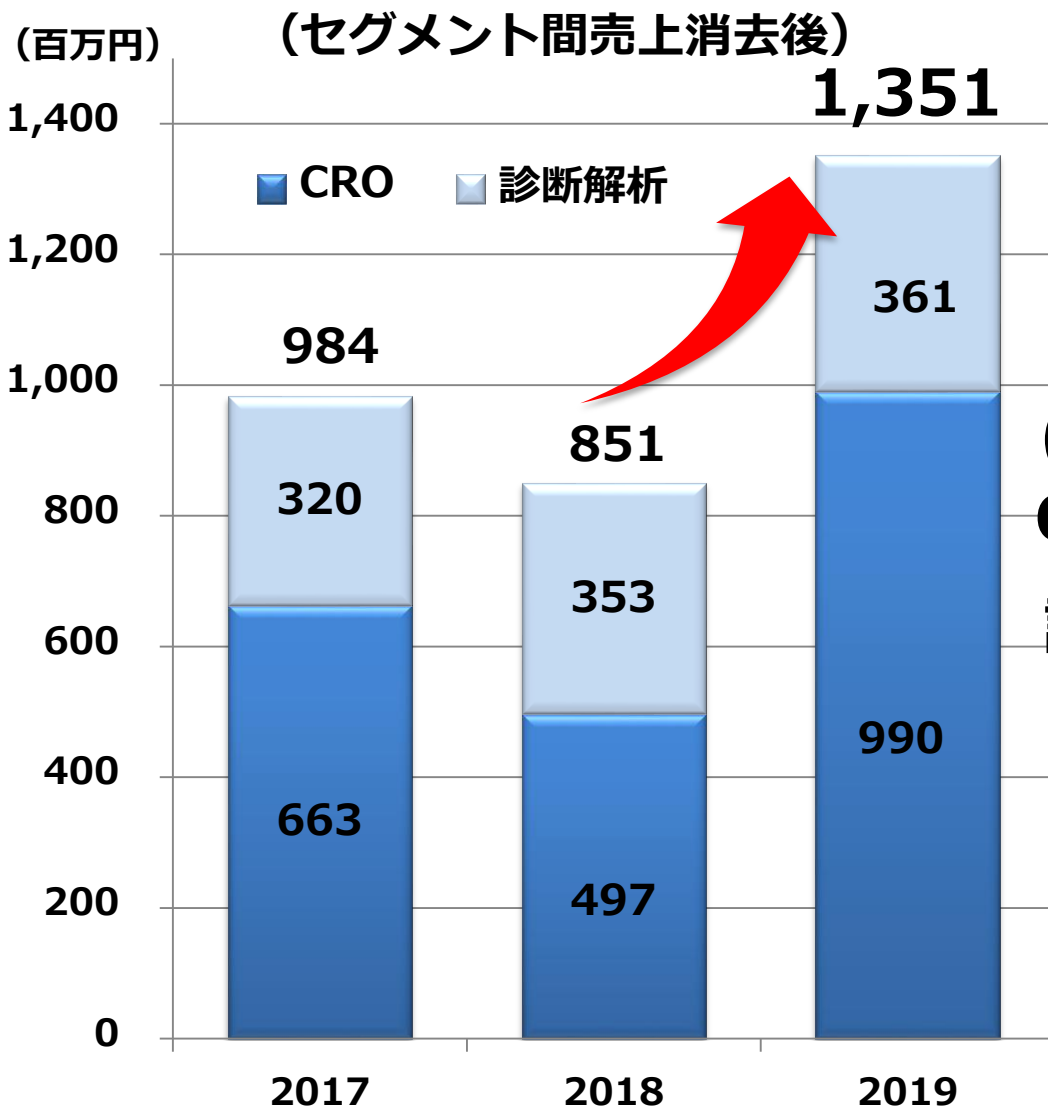


上期連結売上高  
前年同期比**5倍強**  
に拡大

バイオ関連売上が前年同期比で**1.5倍強**に拡大

TGBS事業売上が期首からフルに貢献

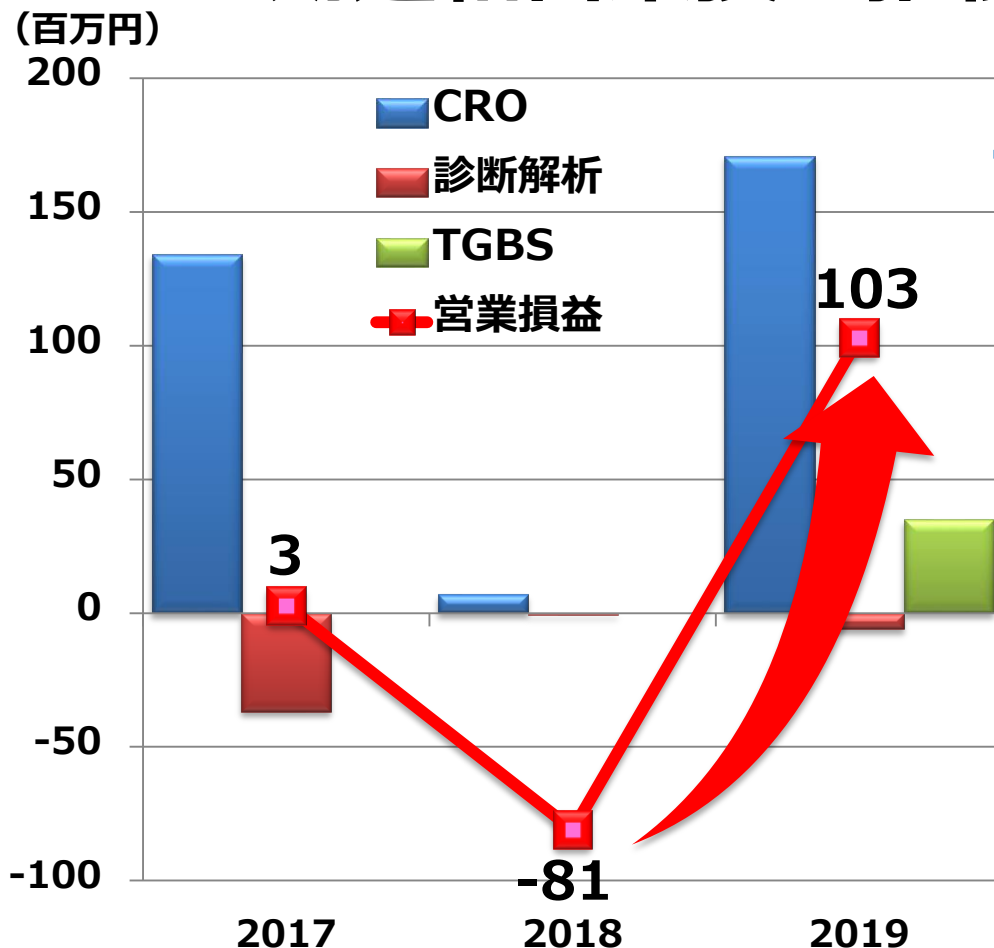
# 上期バイオ関連売上高の推移



**バイオ関連売上高  
前年同期比1.5倍強  
に拡大**

**(株)安評センター加入により  
CRO売上が前年同期比倍増  
診断解析事業も堅調に推移**

# 上期連結営業損益推移



**連結営業利益**  
**前年同期比184百万円**  
**の大幅増加**

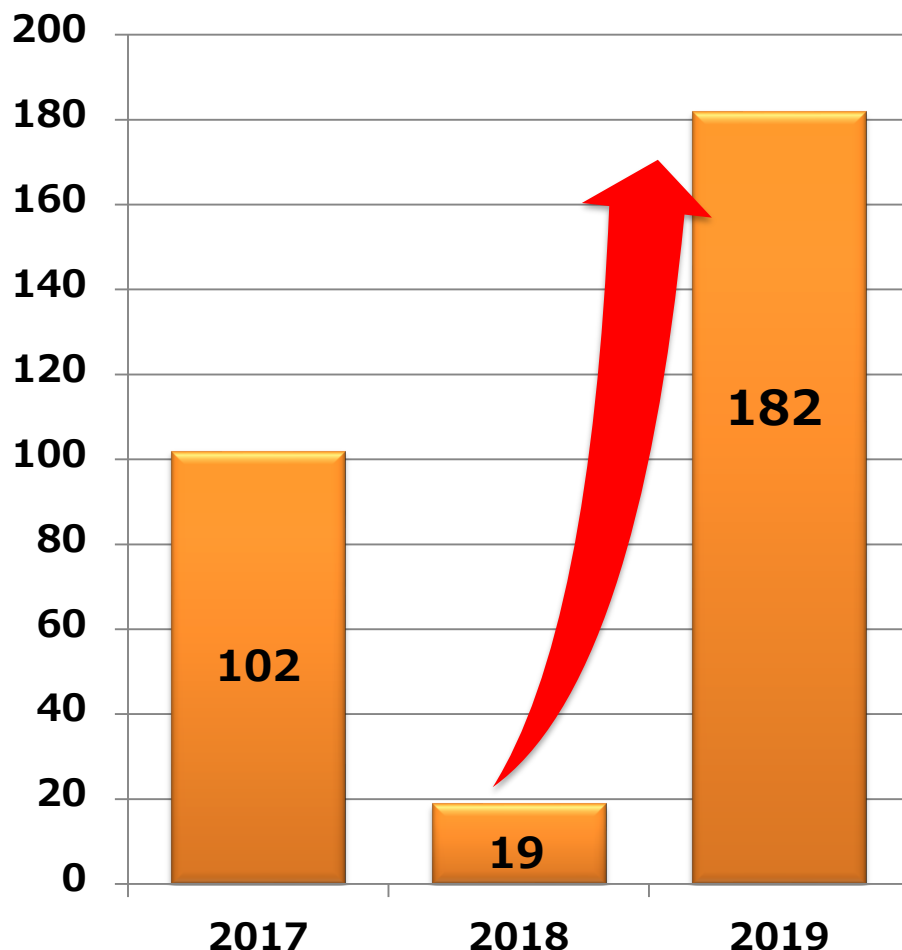
大幅増収に伴いCRO営業利益163百万円増加

TGBS営業利益も全体損益を底上げ



## 上期連結営業CF推移

(百万円)



**連結営業CF**  
営業損益拡大に伴い、  
前年同期比**162百万円**  
**増加**

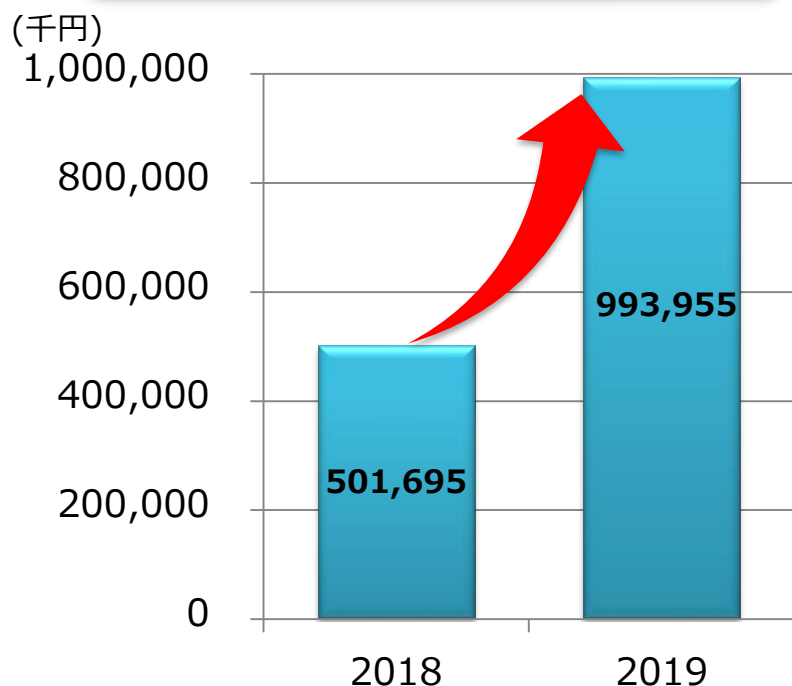
上期の非資金費用（減価償却費、のれん償却費等）は  
92百万円

# セグメント別業績概要：CRO事業

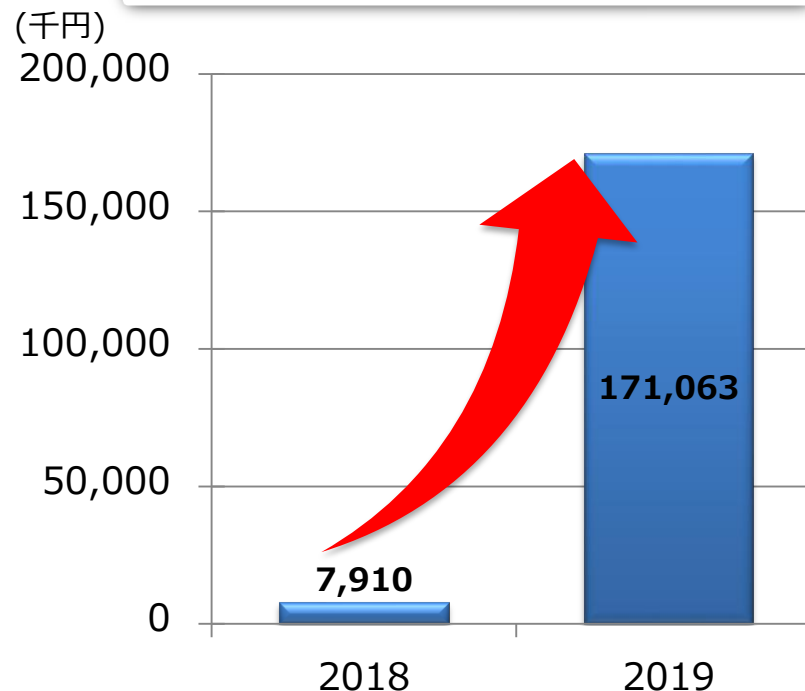
## CRO事業

- (株)安評センターのグループ加入で、売上高は前年同期比で倍増の大幅増収
- 事業基盤拡大に伴い営業利益についても前年同期比163百万円の大幅増益
- 下期偏重型の事業体であり、下半期において更なる増収・増益を実現する

第2四半期売上高



第2四半期営業利益

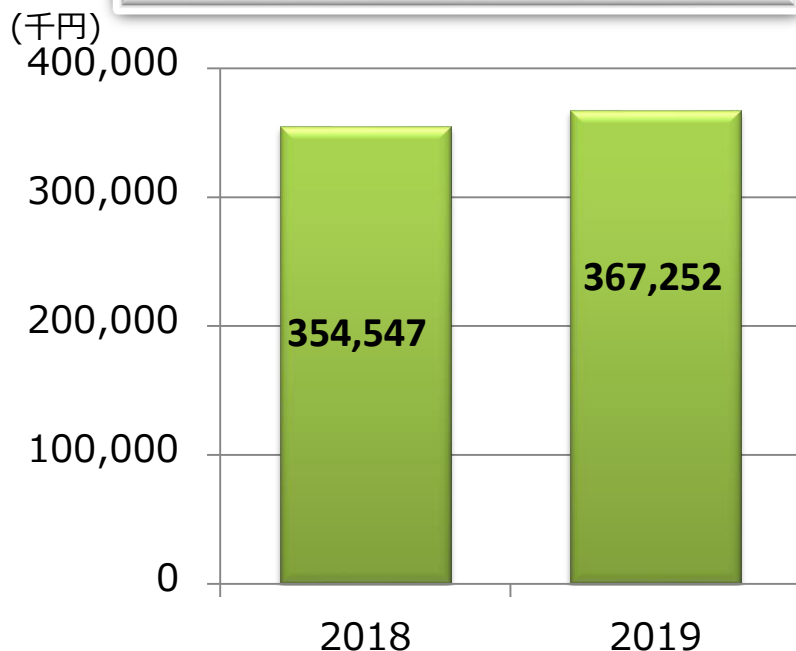


※第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

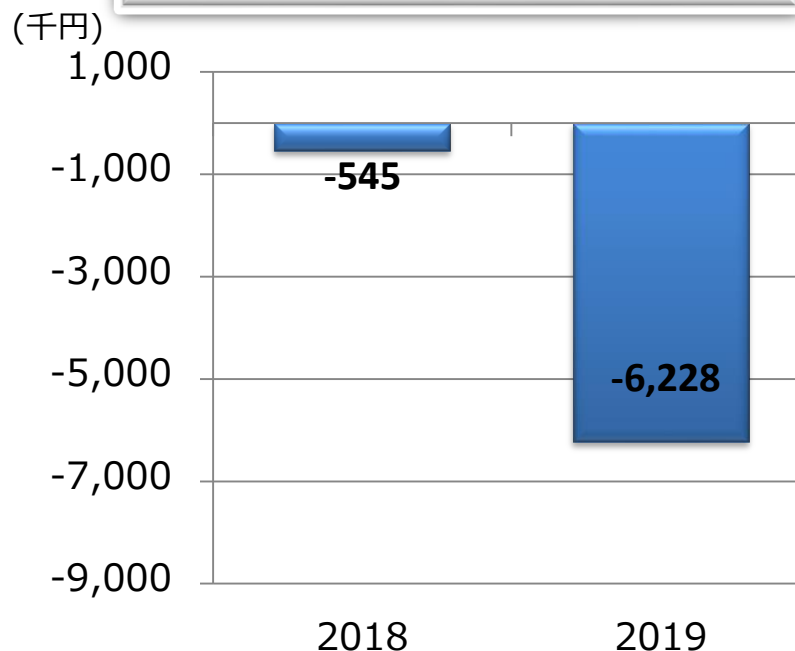
## 診断解析事業

- 取扱検体数増加に伴い病理事業部売上が堅調に推移し3.6%の増収となる
- 補助金を原資とする研究開発活動の先行実施に伴い営業損益は若干悪化
- 堅調な病理事業及び下期偏重型の治験支援事業で通期業績数値を確保する

第2四半期売上高



第2四半期営業利益



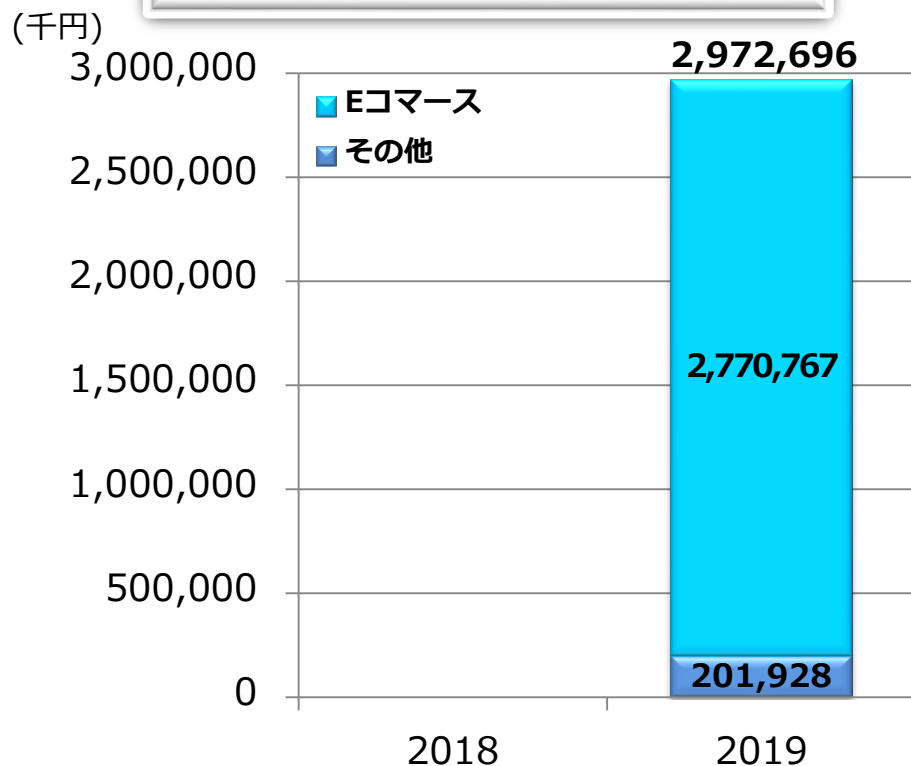
※第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

# セグメント別業績概要：TGBS事業

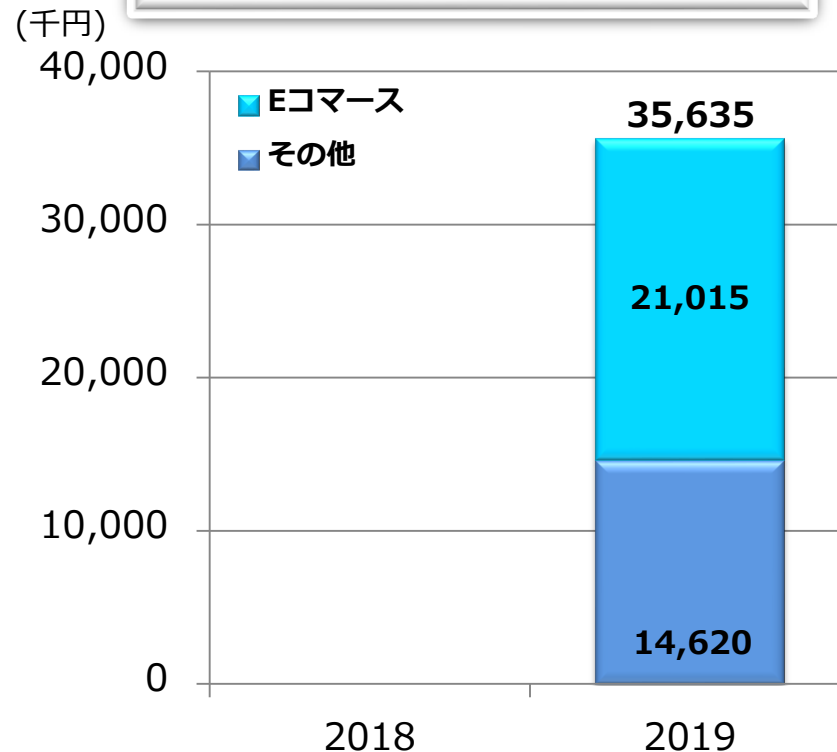
## TGBS事業

- Eコマース事業が予算通り進捗し連結売上高及び連結営業利益の底上げ実現
- その他事業についても堅調に推移した結果、連結営業利益蓄積に貢献
- Eコマースの取扱高が例年増加する年末商戦で通期連結予算達成を計画

第2四半期売上高



第2四半期営業利益





## Ⅱ.2019年3月期 連結業績予想

## 2019年3月期 連結業績予想

- 下期偏重型バイオ事業及び堅調なTGBS事業の売上で通期売上予算達成見込み
- 高収益のバイオ事業損益とTGBS事業損益の損益底上げで通期大幅増益を確保

単位：千円	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 上期実績	2019年3月期 (通期予想)	通期予算 進捗率	補足説明
<b>売上高</b>	3,601,283	<b>4,324,250</b>	<b>8,500,000</b>	<b>50.9%</b>	売上構成を踏まえると堅調
CRO事業	1,295,521	993,955	2,160,000	46.0%	下期偏重型事業
診断解析事業	807,983	367,252	850,000	43.2%	下期偏重型事業
TGBS事業	1,505,360	2,972,696	5,500,000	54.0%	概ね予算通り進捗
本社・連結調整	▲7,581	▲9,653	▲10,000		
<b>営業費用 (TGBS営業費用) (研究開発費)</b>	3,540,729 (1,460,354) (55,156)	<b>4,221,111 (2,937,060) (31,757)</b>	<b>8,200,000 (5,400,000) (40,000)</b>	<b>51.5%</b>	TGBS事業開始に伴い前年比で 大幅増加
<b>営業利益</b>	60,554	<b>103,138</b>	<b>300,000</b>	<b>33.4%</b>	下半期偏重型事業利益で通期利 益予算を達成する
<b>経常利益</b>	14,459	<b>73,857</b>	<b>250,000</b>	<b>29.5%</b>	
<b>親会社株主に 帰属する当期 純利益</b>	20,898	<b>28,352</b>	<b>150,000</b>	<b>18.9%</b>	税効果会計の簡便処理の影響で、 期中の税負担率は高めとなる



## Ⅲ.事業トピックス

# 京ダイアグノスティクス社との業務提携による

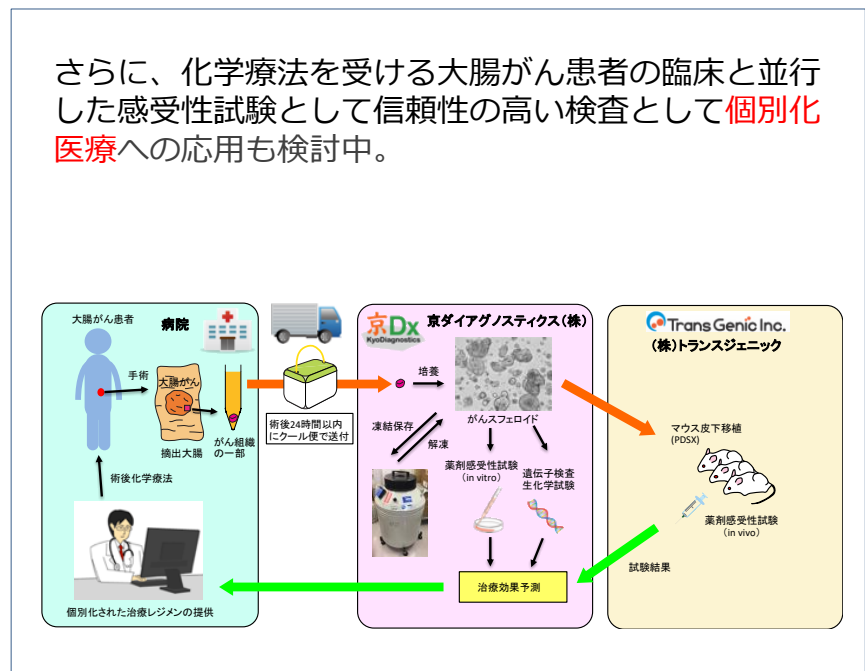
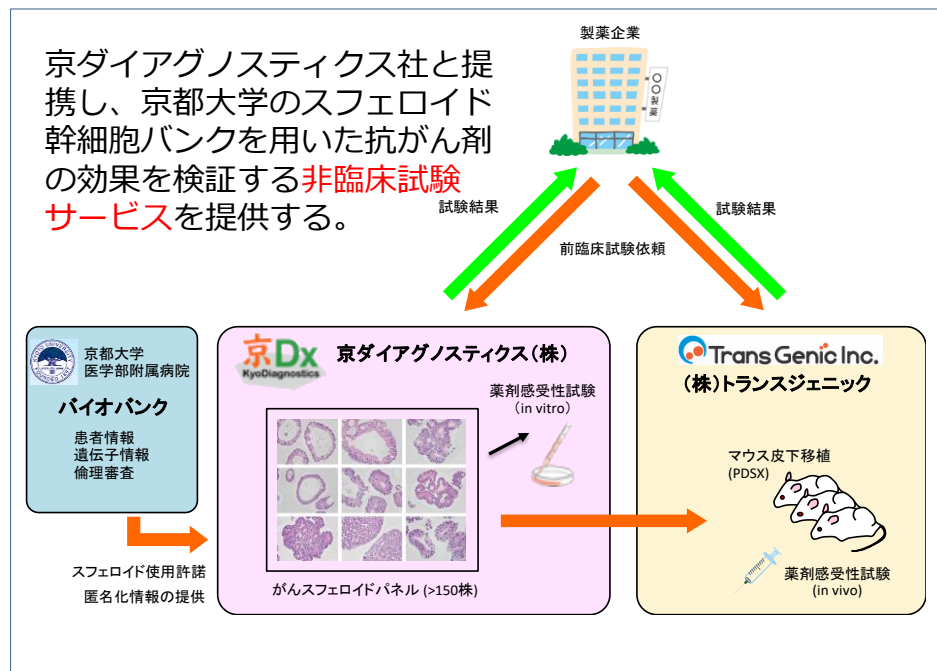
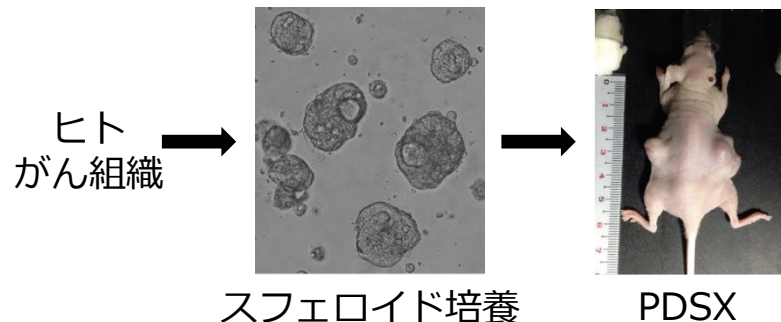
## PDSXを用いた受託事業

抗がん剤開発、がん治療を目指して、ヒトがん細胞由来PDSX (Patient-Derived Spheroid Xenograft) 作製技術を用い、創薬支援事業、診断事業を展開する。

京都大学医学研究科武藤誠教授らは、患者由来大腸がん細胞を免疫不全マウスに移植するPDX法を大きく改良したPDSX法(注)を開発し、がんの薬剤感受性試験に使用することができることを示した。

(注) PDX法に比べ、低コスト、短期間(約2カ月間)かつ再現性の高いマウス作製が可能な技術。

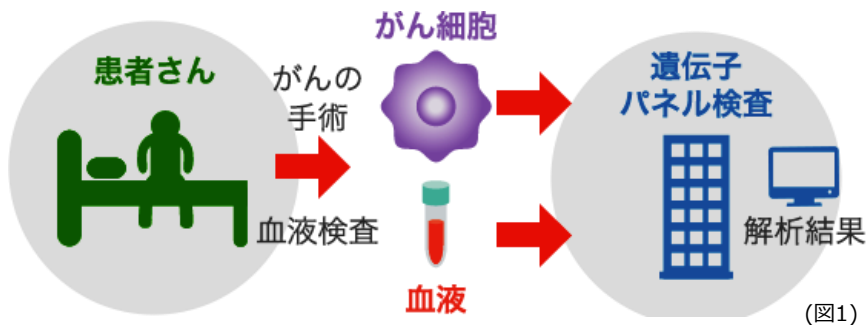
京ダイアグノスティクス社：スフェロイド幹細胞培養技術を所有  
 京都大学：スフェロイド幹細胞バンク(150株～)を所有



さらに、化学療法を受ける大腸がん患者の臨床と並行した感受性試験として信頼性の高い検査として**個別化医療**への応用も検討中。



## 肺がん遺伝子パネル検査



(図1)

### 【研究目的】

国内初の次世代シーケンサー※1技術を用いたコンパニオン診断システムである「肺がん遺伝子パネル検査」と「リキッドバイオプシー（血液生検）検査」を組み合わせ、切除可能な早期肺がん患者さんを対象に、パッケージとして提案する。(図1)

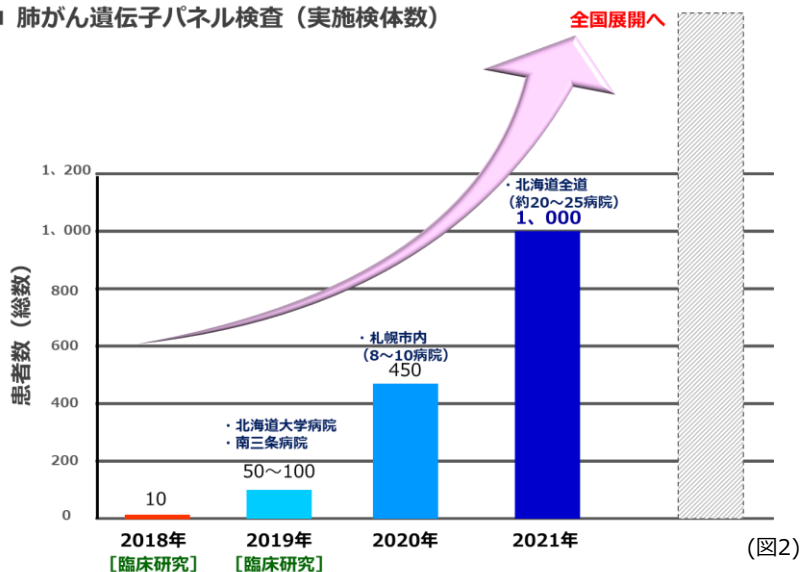
新規ゲノムプロファイリング検査スキーム（早い段階での遺伝子異常の検出と治療への応用）を北海道大学と共に構築・提供する。

◎ 北海道大学 臨床研究開発センター生体試料管理室 及びゲノム・コンパニオン診断研究部門と 連携して実施。

※1 次世代シーケンサー（Next Generation Sequencer : NGS）  
次世代シーケンサーは、ランダムに切断された数千万~数億のDNA断片の塩基配列を高速に読み取りゲノム情報を解読する装置

## 肺がん遺伝子パネル検査の市場性

### ■ 肺がん遺伝子パネル検査（実施検体数）



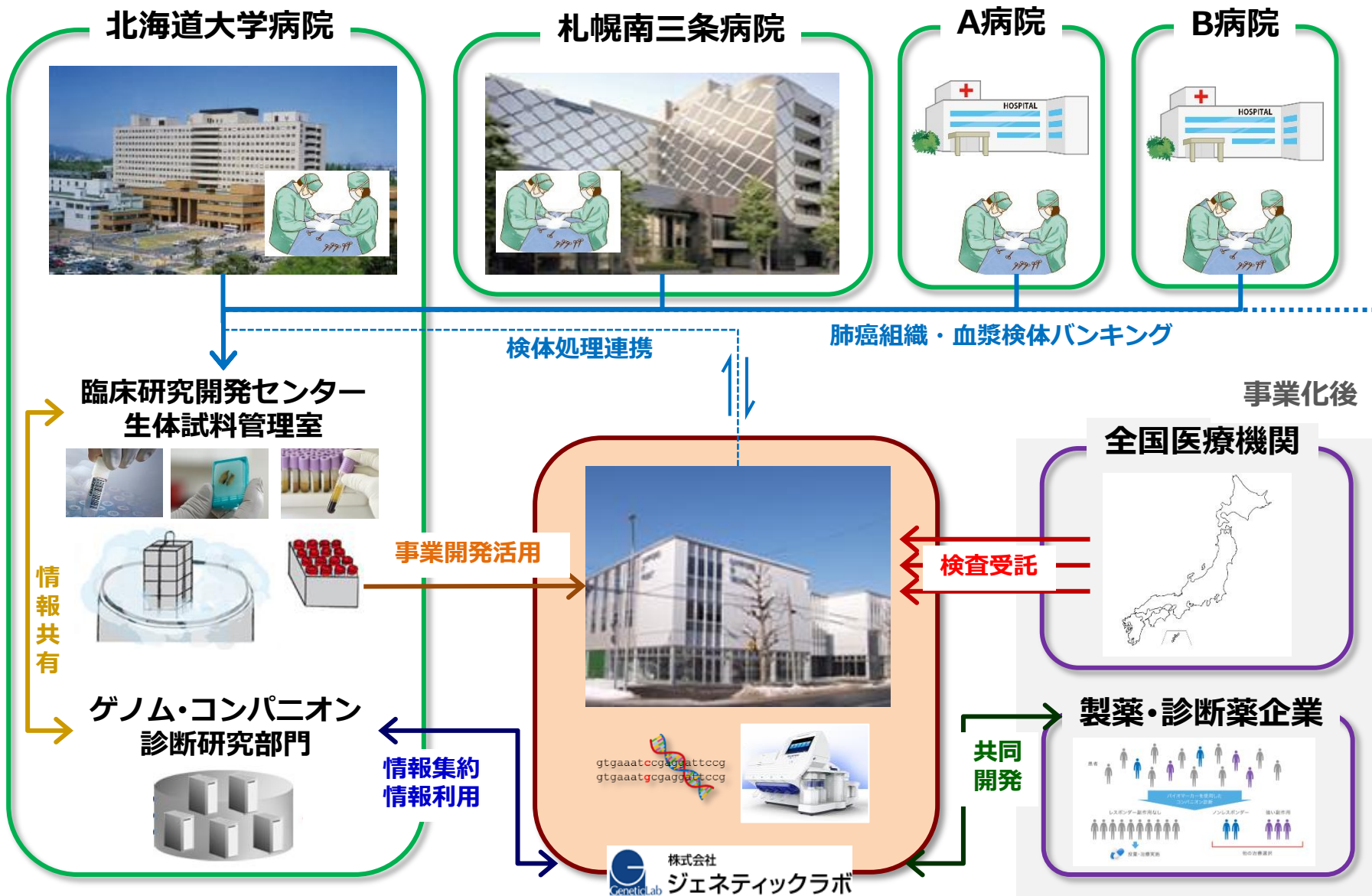
(図2)

### 【事業化に向けた展開と特徴】

札幌市内の北海道大学呼吸器外科同門の病院で展開を開始し、その後、全道内の病院で新規肺癌ゲノム検査（遺伝子パネル検査+リキッドバイオプシー検査）サービスを展開予定。(図2)

難治性がん（自覚症状に乏しく、進行が早くて転移しやすい）の肺がんを対象に、術後ゲノム検査で遺伝子異常を特定し、さらに、高感度のリキッドバイオプシー検査でモニタリングすることで、早期発見・早期治療に繋げる。

# 北海道内医療機関の連携を活用した 新規肺がん遺伝子パネル検査の実施体制





## IV. 研究開発状況

# モデルマウスの導入・開発状況

遺伝子改変技術開発

ROSA26座位での組換え

CRISPR/Cas9法

実用化済

モデルマウス系統の開発

※自社または外部研究機関からの導入開発



モデルマウス系統	導入機関	開発状況	
病態可視化マウス	小胞体ストレス可視化マウス	理研	个体販売中
	酸化ストレス可視化マウス	群馬大	个体販売中
	炎症可視化マウス	群馬大	个体販売中
	UMAIマウス	金沢医科大学	个体販売中
中枢神経系モデルマウス	アルツハイマー病モデルマウス	大阪市立大	受託サービス実施中
	認知症モデルマウス	(有)行動医科研	受託サービス実施中
	精神・神経疾患モデルマウス	産総研	受託サービス実施中
メタボリックシンドローム系モデルマウス	NASHモデルマウス	東大	受託サービス実施中
	肥満抑制モデルマウス	TG社	个体販売中
	夜型モデルマウス	産総研	个体販売中
	アトピー性皮膚炎モデルマウス	兵庫医科大、三重大	受託サービス実施中 个体販売中
	肝臓ヒト化マウス	熊本大・TG社	技術移転実施中

# 開発パイプライン状況：抗体・診断薬・治療薬

短期

中期



## 抗体製品の開発と応用

外部研究機関からの導入開発

日本、アジア、欧州等20か国以上で販売中

肝臓がんマーカー

アボット社

尿中がんマーカー

九州大学等

※中国企業での臨床試験実施中

上市に向け進行中  
(国内診断薬メーカー、  
テクノメディカ)

膵がんマーカー

国立がんセンター

※(株)免疫生物研究所と共同研究  
※中国企業と独占ライセンス契約締結

ライセンス先交渉中  
追加データ蓄積中  
測定キット販売中

泌尿器がんマーカー

順天堂大学

※中国企業と独占ライセンス契約締結

測定キット販売準備中

うつ病マーカー

産総研

測定キット販売準備中

卵胞機能マーカー

聖マリアンナ医大

抗体作製中

自己免疫疾患マーカー

医化学創薬

有用性検証中

乳がんマーカー

医化学創薬

有用性検証中

2018年

4月

東北大学未来科学技術共同研究センターとの 共同研究契約締結 ※2

東北大学未来科学技術共同研究センターとの モノクローナル抗体取扱い及び販売の契約締結 ※2

AACR(米国がん学会) において研究成果発表 ※2

5月

「アトピー性皮膚炎モデルマウス」販売開始

「生体ストレス可視化マウス」販売開始

7月

BDNF(脳由来神経栄養因子) 遺伝子変異ノックインマウス販売契約締結

ノーステック財団の【札幌市補助事業】「先端研究産業応用検証補助金」に採択 ※1※2

10月

子宮頸がん自己検査キットの大手薬局チェーン首都圏店舗での販売開始※1

「"ストップ！子宮頸がん"の会」市民フォーラム開催※1

京ダイアグノスティクスとのヒトがん幹細胞スフェロイド移植マウスPDSXを用いた非臨床試験に関する業務提携契約締結

抗ポドプラニン抗体の販売開始 ※2

北海道対がん協会における未受診者対策を目的とした自己採取HPV検査の研究調査受託※1

■ 共同研究   
 ■ ライセンス契約   
 ■ 製品・サービス   
 ■ 学会・論文   
 ■ その他

当社グループ会社 ※1 ジェネティックラボ ※2 医化学創薬



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<http://www.transgenic.co.jp>